2023/2/27
アルタキッズ浦和常盤園

保護者各位

「自己評価のご報告」

日頃より、保育の運営にご理解ご協力のほど誠にありがとうございます。
コロナ渦での行事も無事に行う事ができ、保護者の皆様のたくさんのご厚意に、深く感謝いたします。

さて、先日はお忙しいなかアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
集計ができましたので、まず「保護者アンケート結果」、次に「職員自己評価まとめ」、最後に「園としての自己評価」をさせていただき、ここにご報告申し上げます。

1.保護者アンケート結果に関して

「保護者アンケート結果」アルタキッズ浦和常盤園				回答率:61.90%
No	質問項目	はい	どちらともいえない	いいえ
1	当社の保育理念・保育目標について理解していますか	61.54%	26.92%	11.54%
2	職員はお子さんの気持ちを大切にしていると感じますか	92.31%	7.69%	0.00%
3	職員の言葉遣いや態度、服装等は適切ですか	88.46%	11.54%	0.00%
4	保育園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか	96.15%	3.85%	0.00%
5	安全対策や感染症対策が十分取られていると思いますか	80.77%	15.38%	3.85%
6	お子さんが怪我をしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか	84.62%	15.38%	0.00%
7	保育所で提供される食事・おやつはお子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか	84.62%	7.69%	7.69%
8	不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員はきちんと対応してくれていると思いますか	69.23%	30.77%	0.00%
9	当園に満足されていますか	73.08%	23.08%	3.85%

項目１につきましては、６割の方にご理解いただいておりますが、その半面約 4 割の方にはご理解いただけていないということで、思っている以上に保護者の方々に届いていないということが分かりました。

保育理念とは「園としてどんな保育・どんな園を目指すのかのビジョン」のことであり、保育目標は「園生活の全体を通してどんな子どもに育ってほしいのか」と示したものなり、保育所として子どもたちの育ちを保障し、一貫した保育に欠かせないものになります。

今後は、保護者の皆様に保育理念や保育目標がしっかり届くよう玄関入口前のお知らせ

ボードなど目につきやすい場所に掲載して共有理解を深める工夫をしてまいります。

項目２につきましては、9割以上の方々にお子さんの気持ちを大切にしていると感じていただいているようで、とても嬉しく思います。
更に職員一同、一人ひとりの園児に寄り添いながら、安心安全な居場所を提供できるよう努めてまいります。

項目３につきましては、「はい」とお応えになられた方が約９割いらっしゃいました。
言葉使いや態度などは職員である前に一人の人間として当たり前のことであり、「保育士は子どもの見本」になるということを常に意識し、保育をしております。
子どもたちがその保育士の姿を見て、知らずうちに学んでいくからこそしっかりとした言葉使いや態度の大切さを職員に指導してまいります。

項目４につきましては、まだ開園して約２年ということもあり「はい」とのお応えが
９割以上の方々からいただきました。
職員で、常に清潔が保てるよう、当番制で毎日数回清掃しております。汚れが気になるところは、気になった職員が率先して綺麗にするということを習慣としておりますので
保護者の皆様に評価を反映させられていると嬉しく思います。
引き続き、保護者の方々が気持ちよく園に通えるよう清潔を保ち続けてまいります。

項目 5 につきましては２割の方が「いいえ」及び「どちらともいえない」を選択しています。安全対策と感染症対策につきましては、以下の通り努めています。

安全対策
① 事故が発生しやすい場面を全職員が認識をする。
② 保育中の事故防止のための、安全点検に努め、安全対策のために全職員の共通理解や体制つくりを図ること。
③ 子どもへの安全を最優先とする意識の徹底。
④ 保育の質の確保。研修の機会を増やすこと。
⑤ 散歩などの園外活動の前後等、場面の切り替わりにおける子どもの人数確認のダブルチェックの体制をとること。
⑥職員間のコミュニケーションとり、情報の共有がとれる環境であること。

安全面に関してですが、先日不調だったすべての扉やカーテンの修繕を行いました。園内の扉に関しましては、子どもたちが扉に乗ってしまい、その振動で微妙なズレ、不具合が起きてしまっています。子どもたちには扉には乗らないよう繰り返し伝え、注意喚起の

張り紙を貼り、知らせていきたいと思います。

感染症対策
①保護者への適切な情報提供（お知らせボードや連絡帳などで配信）を行い伝えていく。
②子どもや職員の感染症の発生状況を記録する。
③感染症拡大防止のため、手洗いや消毒をこまめに行っていく。
④排泄物、嘔吐物などは適切な処理を徹底し、施設内を適切に消毒する。
⑤嘱託医等への相談、自治体、保健所へ報告をする。

項目６につきましては、１５％の方々が「どちらともいえない」という選択をしています。
保護者の方々に、お子さまが怪我をしたときや体調不良のときの対応を信頼していただけるよう職員に指導してまいります。
またお子さまが怪我をした際の具体的な応急処置の方法や怪我を未然に防ぐ取り組み方法につきましても、研修などを定期的に行い、安心してお子さまをお預かりできるよう取り組んでいきたいと思います。

項目７につきましたは、８割の方のご理解をいただいておりますが、２割の方には届いていないという現状が分かりました。
給食のメニューは決められているものを使っているため、園で独自に変更することは難しいのですが、配膳の際に、今日の給食の中にどんな栄養素が入っているのかを調理員から職員に伝え、そのことを職員から子どもたちに伝えています。
保護者の方々には、どのような給食を子どもたちが食べているのかわかるようお知らせボードに給食の写真を掲示いたします。
今後ですが、実際にどの位の量やどの程度の大きさで提供されているのかが分かる「給食サンプルケース」を使って保護者にみてもらえるように検討しています。
子どもたちがあまり好き好んで食べない野菜が出る際は、野菜の切り方を変えてみたり、型抜きなどを使って可愛くしたりして、少しでも子どもたちに食べてもらえるよう工夫しながら提供しています。
また、給食だよりや食育だよりを毎月１回発行し、子どもたちが苦手なメニューや人気のあるメニューレシピを積極的に紹介していく予定です。
食育への取り組みにつきましても現在、各クラスで毎月食育活動を行っています。
今以上に調理員としての知識や情報を取り入れ、子どもたちが自ら意欲的に食べてもらえるよう食育に力を入れ、保護者の方々にも興味を持ってもらえる内容にしていきたいと思います。

項目８につきましては、３割の方々が「どちらともいえない」とのお応えがあり、職員の対応に不安な保護者が多いということが分かりました。要望や不満ごとに関する回答に時間がかかってしまったり、曖昧な回答になってしまったりすることがあり、保護者の方々に大変ご迷惑をおかけいたしました。今後はこのようなことがないよう、スピーディーなご回答、そしてきちんとしたご返答ができるよう努めてまいります。

項目９につきましては、7 割以上の方にある程度満足頂いている結果となりました。
園としては、100％に近づけるよう意見箱を活用し、どこに満足できていないのか、不満な所等、保護者の方からの声をお聞きできたらと思っております。
当園は、子どもの主体性を尊重する保育を目指し、環境構成を工夫し、職員一同保護者の皆様、そして地域の皆さまと連携し、子どものより良い活動の実現の為、精進してまいります。

2.職員自己評価に関して

職員に実施した自己評価のまとめです。各自が一年を振り返り 4 項目についての自己評価を行いました。今年度は、職員の入れ替わりが何度かあり、落ち着かなかった月もありましたが、毎日目標を持って子どもたち一人ひとりと向き合い、今できる事を考え工夫しながら保育を進めてきました。毎日の小さな感動もあり子どもたちの成長を身近に感じる事ができ嬉しく思います。

今年度の反省を生かし、次年度も職員みんなで協力し合い安心・安全の保育をしていきたいと思います。

当社姿勢目標の順守に関して

・当社の姿勢目標に基づき、保育者は順守を守る為には、繰り返し見るなどしてこの姿勢を頭に置き、思いながら保育をしていく。
・報・連・相を徹底し、自分の担任クラス事以外であっても情報を共有し、職員が全員周知出来るようにする。例えば昼礼会議での連絡事項はノートに記載するだけではなく、大事なことは口頭でも早めに共有するように心がけている。
・毎日担当を決めて、衛生管理・消毒をしている。
・タオルの共有は避け、個人（ペーパータオル）のものを使用している。また、室温の調節・換気にも気を配っている。
・普段より分からないこと、気になる事は、後回しにせず調べる事を習慣化できるようにしている。
・保育者が毎月個人の目標を持って取り組む。また、各自が達成できた目標を毎月振り返り、反省点を次の月に活用していく。

2023/2/27
アルタキッズ浦和常盤園

コドモンを用いた保育計画に関して

・保育計画をコドモンで周知する事により、保護者の方へ目標や月の様子が共有できる。また、内容にそって子ども一人ひとりに気が付いた事や変化があれば、その日のうちに共有できるようにしている。
・コドモンを使用する事により、保護者の方が勤務先や出先でも連絡帳を確認したり、伝言の伝え忘れを防ぐ事ができます。また、保護者もコドモンの導入により、効率的に仕事ができるため、子どもたちと関わる時間が多く取れるメリットがあります。
・週の目標、毎日の目標も確認したい時にすぐに見ることができるので、活用しやすい。
・保護者からの連絡は見やすく登園前に昨晩や朝の状況を把握できる事が良い。
・保育園での活動内容を写真もつけて保護者の方に分かりやすく伝えることができるので、とても便利な機能である。保護者からのコメント欄にも写真を添付できると、休日の様子などもわかり、子どもたちとの会話も広がるように思う。
・各クラスの月案や週案を見られるので、子どもたちの成長過程が確認でき、今何に興味が興味や関心があるのか等、クラスの様子を知ることができる。
・アプリを使って連絡できることは便利であるが、保護者と職員のコミュニケーションをとるという意味では、全てがアプリに頼ってはいけないと考えてしまう。
・保護者との連携により、相互の信頼関係が保たれ、子どもの健やかな育ちに繋がる。
・その日の子どもの様子をデーターでお知らせできる。

保育の成果集(Libro)に関して

【タイトル】

お友達をなでなで

【保育の場面】

泣いている友達に対して、優しく頭を撫でている。

【感動を伴う保育成果】

泣いている友達を見つけて、頭を撫でる事で誰かを思いやる気持ちが芽生える。頭を撫でてもらった子どもも、嬉しい気持ちから他の友達が泣いていた時に、同じように慰める事ができる。

【環境設定や手順】

始めは保育士が実践する。それを見た 0 才児が真似をするようになる。その時に声を掛ける事が大切である。「〇〇ちゃん、いい子、いい子してくれてありがとう。△ちゃん、嬉しいね」その様子を見た、他の 0 才児も真似るようになる。撫でてもらった子どもも、別の場面で行うようになる。

【今後の課題】

0 才児だから難しい、と考えるのではなく丁寧にお話することが大切だと感じた。ゆっくり向き合って関わることが必要である。

【タイトル】

人見知りしている子どもへの対応

【保育の場面】

途中配属された１歳児クラスにて、子どもたちが人見知りをして私に近寄ってくれなかった。

【感動を伴う保育成果】

子どもたちが心を開いてくれ、その結果、積極的に手を繋いでくれたり、おはようと抱きついてくれるようになった。

【環境設定や手順】

・人見知りしている子どもに対して朝の挨拶をする時は、必ずスキンシップをとる。
・戸外遊び等、子どもの機嫌の良い時に、近くに寄り遊びを共に楽しむ。
・今まで出来なかったことが出来るようになった時には
スキンシップをとりながらたくさん褒め、喜びを共有する。
・一対一の時間を大切にして話を傾聴したり、子どもの好きそうな話題を出すことで信頼関係を築いて行く。
・少しずつ子どもが心を開いてきたと感じられたら、排泄や午睡等の基本的生活習慣まで積極的に介助し、「子どもが安心して過ごす時間」に対し関与する時間を増やすようにする。
・イヤイヤ期であるため、「イヤイヤ」している時には無理強いをせず、子どもの気持ちに寄り添うことを重要視する。

【今後の課題】

新入園児が入園してくる際にも、個々の特性に合わせて柔軟な対応をとり子どもたちとの信頼関係を築いていく。

【タイトル】

戸外活動

【保育の場面】

公園や散歩の際の風景

【保育の場面】

生き物に興味や愛着をもった。

【環境設定や手順】

公園や散歩の道中で、あおむしがいる場所があり、観察をしながら興味がわくような声かけを行い、保育室に帰ってからは、はらぺこあおむしの絵本を音楽と一緒に楽しみ、自然に歌を口ずさむようになった。

【今後の課題】

生き物に興味をもち愛着がもてるようになっていたので、他にも絵本や製作を入口として様々な事に興味が広がるようにしていきたい。生き物に優しく接する事から、友達同士を優しく行う事にも繋げていきたい。

【タイトル】

どうしたら伝わるのかな

【保育の場面】

午睡

【感動を伴う保育成果】

今は身体を休める時間と伝えることができた

【環境設定や手順】

お昼寝の時間、保育者が交代すると立ち歩き、遊び始める園児がいた。布団を他の園児から少し離れた場所に移動するもおさまらない。立ち歩くこと、遊び始めることを保育者が止めること自体がその園児には楽しく、遊びになってしまっていた。

その園児としっかり目を合わせ、いつもより少し低いトーン、　そして敬語で今は身体を休める時間であることを伝えた。真剣に話しているということを伝えたかった。園児が一瞬ハッとした表情に変わり、伝わったことがはっきりと分かった。言葉のトーン、表情、話し方の重要性をとても感じた一瞬だった。

【今後の課題】

・日によって起き上がってしまうこともあるので、都度目を合わせて話す。

・例に挙げた園児だけでなく、活動の切り替え時に約束事等の伝えたいことが伝わってないと感じることがある。約束時にどのような話し方をしたらよかったのか、伝わっていないと感じたときに再度どのように言葉かけしていくべきなのかを考えていく。言葉かけに限らず、シミュレーションや予測はできていたのか等も併せて振り返っていく。

・保育者の言葉かけによって、その後の子どもたちの気持ちや行動も変わることを改めて考え、日々精進していきたい。

【タイトル】

相手の気持ちを考えて伝える

【保育の場面】

相手の気持ちを考えて伝える

【保育の場面】

仲間に入れてと伝えたが「やだよ」と言われ落ち込んでいる。

【感動を伴う保育成果】

言われる相手の気持ちを理解し、共感する事で思いやりの気持ちが芽生える

【環境設定や手順】

状況を説明し、同じように「やだよ」と言われた時、自分ならどのように感じるかを考え意見を出し合う。

「やだよ」以外の言い方は無かったか、あるとしたらどんな言い方が良かったのか、保育者がヒントを出しながら一緒に考える。

【今後の課題】

正解がある問題ではないが、自分が言われた時の気持ちを知ることで、今後自分が断りの言葉を発する時の言い方に少しでも思いやりの気持ちが芽生えるよう促す。
同じようなマイナスのイメージの言葉をどう相手に伝えるか、一緒に考える機会を増やしていく。

【タイトル】
英語教育について
【保育の場面】
保育室内での活動
【感動を伴う保育成果】
知らなかった言語への興味を持つ
【環境設定や手順】
天気や色のカードを用いて英語に触れる。
保育者がカードを示し、それに合った英単語を子どもたちと一緒に復唱し、慣れてきたらカードを出し、その単語を子どもたちが発する。
英語の歌に合わせて、体の部位を触り、その部位の名前を覚える。
【今後の課題】
数字や動物など、英単語を増やしていく。
子どもたちの興味が持てるような英語の歌を事前に準備する。
定期的に繰り返し行う事で、その知識を定着させていく。

子どもたちとの正しい接し方（Luce）について
・小グループや個別の関りでは、子どもたちが遊びやすいように、広さや素材を提供できるよう、すべてのエリアを見渡せるような環境設定を心がけている。
・日々自己評価しながら保育をする必要があり、よりよい保育ができるよう考えていく必要がある。
・子ども同士で怒った、怒ってない等の言い合いがあった場合、片方の子保育者に「〇〇ちゃんが怒っている」と話しに来た時など、「まずは、自分で怒っているのか聞いてごらん」と促し、子ども同士で解決していけるように補助するように心がけている。
・「保育者が子どもの声を聴く事、子どもが他者の言葉を聞くよう支えること」について、幼児クラスでは子ども同士のトラブルが起きた際、保育者が話を聞き、一度気持ちを受け入れ双方の気持ちを知る機会を設けている。嫌な気持ちが残る場合には、違う伝え方」や違う言い方はなかったかと考える声かけを行っている。
・子どもたちが感情を表に出しやすいように、必要に応じて保育の環境設定を臨機応変に変えて工夫しながら行っている。
・お友だちとの関りや様々な遊びに興味が持てるよう、ごっこ遊びや遊び方を見せながら子どもたちと一緒に遊ぶ。

・玩具のマンネリ化やお友だちとの関りの成長過程の中、かみつき行為も見られるので、早急に手作り玩具の作成や、保育室の環境設定を変えるようにした。
・知識と実践から正しい接し方を学び、日々の保育に生かしている。
・日本語が母国語ではない子どもの接し方では、言葉のやり取りでのジェスチャーを強化したり、製作では、丁寧に見本を見せ簡単な単語を使うようにした。
・絵本の読み聞かせでは、想像を膨らませるような読み方をして、話の中に引き込ませる。また、発達に沿った絵本を選択することで、表現力を膨らませたり、共に考え共感できる時間を持てるようにした。

3.園としての自己評価に関して

・

当社（全園共通）の保育理念（国際人を育成する）に関して

・私たちは、保育に関わるものは常にこの保育理念を念頭に保育計画を立て、毎日の保育に当たらなければならないと思う。
・国際人を育成するという事を保育で感じたことはない。英語講師や知育玩具を子どもたちが自然に使いたくなる環境を作っていくことが必要だと思う。
・現代グローバル化が進んでいく中、幼児期から英語教育やリトミック、体育などを取り入れ園のアピールに繋げていきたい。
・国際人を育成にあたり、現在の園の保育者のスキルでは難しいと感じている。専門知識を持った講師等が率先して指導を行い、またその指導方法を現場での職員も学習し、子どもたちと一緒に身に付けて、日々の活動の中に取り込んでいけるのが理想的であると感じる。
・近年、日本人の子どもだけでなく、海外の子どもも増えてきているので、今後は少しずつ英語を取り入れる活動をしたい。乳幼児期に英語に触れる機会を設け、様々な文化や国があることを子どもたちに伝えていきたい。
・日々の対寧な関わりを通じて、健全な生活習慣を形成し、明るく前向きな姿勢を育む。また、子どもたちに自分らしい元気な姿を持って、より良い人間関係を求める力も育てます。このことは、将来国際社会で活躍するための力になります。
・園行事などでは、日本の文化のものが多い為、クラス遊びや活動の中で、行事の中にはない異国に触れられる歌やゲーム、衣服や食文化の違いをパネルシアター等を使って興味を引き出していきたい。言葉、肌の色、文化が違ってもお互いをみとめ合い、関りをもつことで、より良い人間関係を築いていけるような援助をしていく。
・保育の中で、簡単な単語ではあるが、毎日言葉で発することにより、自然に身につく事ができている。現代は小学校でも英語教育を行っています。幼児期に英語に触れることで、将来自身に繋がり世界に通用する人間になる可能性が期待される。

2023/2/27
アルタキッズ浦和常盤園

当園の保育目標に関して

保護者の皆様のご意見や、職員の自己評価を踏まえ次年度もお子さん一人ひとりと向き合い耳を傾け、個々の意見を大切にしながら、良いところを伸ばしていきたいと思います。

また、教育の 4 育（食育・体育・知育・徳育）と保育の 5 領域に関する発育を乳児から総合的で段階的に促す事を保育者が意識し、以下 3 点について目標を掲げ、保育を進めて参りたいと思います。

①よく食べ・よく寝て・よく学び・基本的週間を身に付ける。
②健康的な心と体を育む。
③人を思う優しい気持ちを育む。